

76巻3号

2021年7月1日

YAA 天文会報

(7~9月号)

789号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



こぎつね座 M27 (亜鈴状星雲)

撮影：山形幹夫

観望ガイド

正木

5月の「月と3惑星の並び」、「皆既月食」とともに横浜ではすっかり雲に覆われて全く見ることはできませんでした。おかげで会報に載せることができるような写真も撮れませんでした。

7月5日に水星（+0.4等）が西方最大離角となり、明け方の東北東の低空に見えます。右上には下限すぎの細い月も見えています。12日には宵の西北西の低いところで月齢2の細い月と金星（-3.9等）、火星（+1.8等）が接近します。視野角が5度程の双眼鏡では同じ視野の中に全てが見えます。月は地球照も見えますから、是非ともカメラに収めたいですね。ただし日没後90分ほどで沈んでしまうので、西北西の見晴らしが良い場所で早めのアクションが重要です。なお、金星と火星が一番近づくのは翌13日の夕方です。24日は、満月直後の月と土星（+0.2等）が接近しすぐ東側には木星（-2.8等）も見えています。夜の10時ごろだと南東の方向になります。7月は下旬に極大となるみずがめ座 δ 流星群とやぎ座 α 流星群が有名ですが、今年は下限近くの月があるので条件は良くないです。

8月は、2日に土星が衝、20日に木星が衝となり見ごろを迎えます。13日の明け方、午前4時ごろペルセウス座流星群が極大になります。月齢は4と月明かりの影響もなく、今年のペルセウス群は最高の条件となりました。薄明の始まりに向かって出現数が増えていくと思われます。流星は空のどこに現れるかわかりません、建物が密集する場所などで放射点のペルセウス座が見えなくても、視界が開けた方向の空を見ていれば流れ星を見ることができます。あとはお天気に恵まれて欲しいです。

9月21日は中秋の名月です。「中秋の名月」とは陰暦の8月15日の夜に見える月で、その日が必ずしも満月とは限りません。しかし今年は「中秋の名月」が「満月」になります。

最近はお月見をする人が少なくなっていますが、スーパーなどでお月見用の団子を見かけることもあります。たまにはグラス片手にでものんびりとお月見も良いのではないのでしょうか。そして満月は案外と明るく眩しいものです。あまりじっと見つめないようにご注意ください！ 南の空には木星と土星が並んで光っています。

【例会】

まだまだ新型コロナの先行きが見えません。決まり次第ホームページにてお知らせします。

冷却ワンショットカラーCMOSカメラの短所

山形幹夫

これまでも少し書きましたが、冷却CMOSカメラを使用するにはその特性の長所、短所を理解することが必要でしょう。今回お話しするのは、私が勉強のため購入したワンショットカラーカメラの短所についてです。モノクロカメラの場合、撮影や処理に手間がかかりますが、LRGB色分解によって撮影することによりカラーデジタルカメラを超える画質が期待できます。

冷却（非冷却も）CMOS/CCDカメラですが、以前お話ししたように画像処理エンジンを搭載していません。ニコンやキヤノンなどのカメラメーカーが販売しているカメラには画像処理エンジンが搭載されています。これは何かと言うと、CMOS/CCD等の撮像素子が出力する電気信号情報を画像に変換するコンピュータと言えるものです。変換に際しノイズの除去、色空間への適正な処理、その他画作りがメーカーのノウハウにより行われています。

ワンショットカラーカメラの場合、色処理とノイズ処理がないことが大きな短所となります。結果として冷却の無いデジカメと比べてこれと言った利点がないと私は考えます。最近のデジカメは動画撮影に力点を置くため静止画で高感度設定しても、以前に比べて良い画質が得られる傾向です。これからワンショットカラーカメラを購入しようとして検討の方はよくよくお考えになられるよう、申し上げる次第です。以下は作例です。ゲイン設定最大600に対し400で設定。ノイズ影響と思われるザラザラ感は如何ともし難いです。



対象天体は、
NGC7293
ビニング無し
180秒露出
コンポジット
枚数：16
ビニングしないため感度設定を高くせざるを得ず結果として出来の悪い画質となった。色の出も貧相です。
25cm f1400mm
ニュートン望遠鏡直焦点。
撮り直し予定です。

日月星の伝承を訪ねて (68)

横山好廣

前回に続き静岡市由比の望月翁宅での調査報告である。

今回は、全て望月忠吉翁(95 歳)から伺った貴重な話である。

◎平成 24 年(2012)4 月 6 日・10 日、9 月 10 日

星の名 つづき

・フタツボシ-----こぐま座 β ・ γ 星

「夏のサバ漁(7・8 月)で沖の瀬に行ったものだが、その帰りは、フタツボシを目安にした」

「夏の夜中過ぎに、二つ横に並んだフタツボシの真ん中を目指して帰ると、間違いなく 3 時~4 時頃由比に着いた」

「これは親父に沖の瀬の船の上で教わり、実際そのようにして何回か由比に帰った」

「フタツボシは真上より下にあって、まわりに明るく目立つ星はない。時間が経ってもフタツボシの向きは変わらなかった。ホシの間はミツボシぐらい」

「由比から沖の瀬に行くときは星は使わない」

*石花海から由比までは、ほぼ北の針路をとることになるので、船の針路の目安として北極星を話題にすると「自分は現地で、親父からフタツボシのことを教わった」ということで、北極星にはあまり興味が無いようであった。また、念のために、カシオペアの形も図示したが、特に関心を示して

くれなかった。

由比のフタツボシの同定にあたっては、翁からの話に加えて、目安の星は長時間、楽な姿勢で追うことの出来る高さにあること、さらには北極に近い周極星であることも考慮した結果、由比のフタツボシはこぐま座 β ・ γ 星ではないかと推定した。

文献的には、内田武志『星の方言と民俗』(岩崎美術社 1977)と柴田宸一「星の方言」(『ふるさと百話』静岡新聞社 1976)に、静岡県伊東市、焼津市、榛原郡吉田町・御前崎町などで、こぐま座 β ・ γ 星をニボシ・ニノホシ・フタツボシなど出



典・『大きな文字の地図帳』帝国書院 2019 と呼ぶ例があり参考になった。

特に興味深いのは、「星の方言」によると、由比の隣、蒲原町でもこぐま座 $\beta \cdot \gamma$ 星をフタツボシと呼ぶことであった。しかし、残念なことに、このフタツボシ星も他の土地のフタツボシ同様、漁船が北進するときの目安に使われたという記載がない。このため、望月翁の話は貴重であると思う。

また、同書によると、蒲原では双子座 $\alpha \cdot \beta$ 星もフタツボシと呼んでいるが、こぐま座のフタツボシとの識別は不明であった。一方、由比では双子座 $\alpha \cdot \beta$ 星の方はニボシと称して（『星の方言と民俗』）、こぐま座のフタツボシと識別していたと思われる。

＊「沖の瀬」は、「石花海（せのうみ）」の南堆（最浅 71m）のことで、石花海は由比の南、およそ 4～50 kmにある南北 2 つの浅堆からなり、両堆の東は水深 2000～2500m の駿河トラフとなる。浅堆上は古くからの好漁場で、サバ・アジなどの漁獲量が多い（参考・『角川日本地名大辞典』2 2 静岡県 角川書店 1982）。

◎平成 24 年(2012)9 月 10 日

月見

- ・十五夜と十三夜に、二段のお供え餅を盆に載せて供えた。
- ・船玉様（船神様）のところにも、お神酒・米粒・ヘソ餅・ススキを供えた。
- ・ヘソ餅は、桵に赤い紙テープを張り付けたお金と一緒に供える。
 - ・子どもたちが貰いに来るとあげた。
 - ・ヘソ餅はお祝いの時につくった。
 - ・新造船の時にも、桵にヘソ餅・お金（赤いテープ付き）を入れて、投げ餅にした。

＊ヘソ餅とは、米粉団子の丸く平たい部分の中央を指でへこませたもの。「おへそ」と称する土地もある（参考・『静岡県の年中行事』富山昭著 静岡新聞社 1981）。興津では、月見になると菓子店の店頭へヘソ餅が並んでいた。

＊漁家らしい月見の習俗を聞くことが出来た。ヘソ餅を供えるところに郷土色を感じる。総じて漁家と農家の習合行事になっている風である。

＊月見に船玉様へお供えをする採録経験は少なく、他には、2015 年 1 月 19 日、神奈川県三浦市白石町で 97 歳の漁師に聞いたぐらいである。その概要は、船玉様に桵を挿したお神酒と良い魚（真鯛や金目鯛など）を供えるという、とてもシンプルなものであった。豊漁を祈ったものらしい。

静岡市由比で望月忠吉翁を中心に、望月家での聞き取りの報告は以上をもって終わります。ご家族の皆様には大変お世話になりました。改めて謝意を表します。

（由比・了）

天 象

相原 榮

7月

水星：明けの東北東天高度を上げる、前半観望好期 +1.1~-1.9等 おうし→かに座
金星：夕方の西天、宵の明星で輝く -3.9 かに→しし座
火星：夕方の西天低空 +1.8等 かに→しし座
木星：夜半過ぎにに南中 -2.7~-2.8等 みずがめ座
土星：宵に昇る、観望好期 +0.4等 やぎ座

2日 06h11m 半月(下弦)

7日 06h05m 小暑

10日 10h17m 新月

12日 宵の西天で月と金星・火星が集合

17日 19h11m 半月(上弦)

22日 23h16m 大暑

24日 11h37m 満月

28日 14h みずがめ座δ流星群が極大の頃

30日 14h やぎ座α流星群が極大の頃

31日 22h16m 半月(下弦)

8月

水星：中旬から夕方の西天、高度低く観望困難 -1.9~-0.1等 かに→しし座
金星：夕方の西天で高度を上げる -3.9 しし→おとめ座
火星：夕方の西北西天低空 +1.8等 しし座
木星：夜半に南中、観望好期 -2.8~-2.9等 みずがめ→やぎ座
土星：夜半に南中、観望好期 +0.4等 やぎ座

7日 15h54m 立秋

8日 22h50m 新月

11日 夕方の西天で月と金星の接近

13日 04h ペルセウス座流星群が極大の頃(条件良)

16日 00h20m 半月(上弦)

18日 09h はくちょう座κ流星群が極大の頃

19日 夕方水星・火星が接近

22日 21h02m 満月

23日 06h35m 処暑

30日 16h13m 半月(下弦)

9月

水星：夕方の西天低空 -0.1~+1.4等 おとめ座
金星：夕方の南東天、宵の明星で輝く -3.9 おとめ→てんびん座
火星：夕方の西南西天超低空 +1.8~+1.7等 しし→おとめ座
木星：夜半前に南中、観望好期 -2.8~-2.7等 やぎ座
土星：夜半前に南中 +0.4~+0.5等 やぎ座

7日 09h52m 新月

18h53m 白露

9日 20h 9月ペルセウス座ε流星群が極大の頃

10日 夕方の西天で月と金星が接近

14日 05h39m 半月(上弦)

18日 宵に月と木星が接近

21日 08h55m 満月

23日 04h21m 秋分

29日 10h57m 半月(下弦)